

INTERVIEW

FOMA M1000 で、ビジネスとケータイの新しい関係を創る

注目を集めるNTTドコモのビジネスケータイ「FOMA M1000」。PCメール、フルブラウジングインターネット、無線LAN、グローバル、アドインアプリケーションなどビジネスに使える機能を多数搭載した本格的スマートフォンであるFOMA M1000について、開発の狙いから市場での展開状況について、プロダクト&サービス本部の徳広清志コピキタスサービス部長にうかがった。



㈱NTTドコモ
プロダクト&サービス本部
コピキタスサービス部長
徳広 清志氏

モバイル環境でも、オフィスのパソコンと同じ感覚で使えるツール

7月1日に発売開始したビジネスFOMA「FOMA M1000」が注目を集めています。開発の背景及び製品コンセプトからお聞かせください。

徳広 外出先でもパソコンと同じような感覚で使えるハイエンドのモバイル端末に対するニーズが高まることを想定し、FOMA M1000の開発に着手しました。ビジネスパーソンの外出先でのパソコンの利用実態から、iモードではできなかった添付ファイルの送受信と閲覧機能とフルブラウザ機能を柱に、パソコンに代わって使える新しいFOMA端末を目指しました。

モトローラ社を共同開発パートナーとして選ばれた背景をお聞かせください。

徳広 他のFOMA端末の調達と同様、国内/海外問わず携帯電話メーカーに声を掛けた結果、我々のコンセプトにあった携帯電話端末の提案がモトローラ社からあったというわけです。

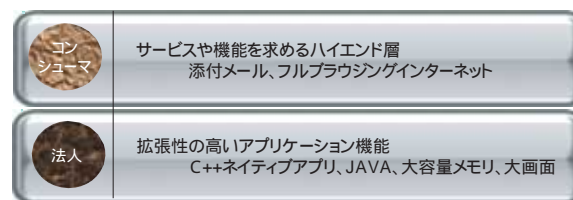
モトローラ社は海外でGSM/GPRS方式の「A1000」という「Symbian OS 7.0」を搭載したスマートフォンを提供していました。これをベースに開発を進めることで通常よりも早い開発期間で市場投入が可能となりました。

また、日本語対応やFOMAへの対応に加え、A1000にはなかった無線LAN機能を搭載することで昨年8月に合意し、共同開発したわけです。

ビジネスユースの大きな力となる5つのスペシャル機能

ビジネスユースに注力した新たなFOMA端末ということですが、主な機能・特徴をお聞かせください。

徳広 FOMA M1000には、ビジネスに役立つ5つの代表的な機能があります。まず一つは、PCメール機能です。POP3/IMAP4に対応したインターネットメールでは、ビジネス文書（WordやExcel、PowerPoint、PDFなど各種の文書ファイル）等を添付



コンシューマ、法人の両側面から、Anywhere in Businessの実現

ビジネスユースに注力した新たなFOMA

～ビジネスとケータイのあたらしい関係～

図1 ビジネスにおけるハイエンド端末のニーズ

し送受信できます。さらに、NTTドコモが提供するFOMA向けインターネット接続サービス「mopera U」と組み合わせることで、iモードメールと同じようにメールの自動受信が可能になります。これにより携帯電話ならではの「Always On」の状態でもメールをチェックできるのでビジネスチャンスを逃しません。2つ目は、ブラウザ機能です。「Opera 7.5」を採用することにより、PCと同じ感覚でフルブラウジングインターネットを実現しました。

3つ目は、無線LAN機能（IEEE802.11b）です。これにより公衆無線LANや自宅・企業内の無線LAN環境で利用できるため、



写真1 FOMA M1000の利用シーン例



図2 ビジネス活用を加速するアドインアプリ機能

FOMAの packets 通信と上手く使い分けることができます。たとえば、FOMA packets にてリアルタイムに差出人や件名といったメールのヘッダ情報のみを受信。その後、必要に応じて、無線LANエリアでデータ量の多い本文や添付ファイルを取得すれば、コストや時間を効率化できます。4つ目は、3G(W-CDMA)/GSM/GPRS方式に対応していることです。これにより、海外でも同じ電話番号で通話はもちろん、データ通信が可能となります。

5つ目は、アドインアプリです。こちらはC++やJavaで業務用アプリケーションなどを開発し、追加搭載できるという機能です。これにより、ビジネスコンシューマが個人で使うだけでなく、より柔軟にカスタマイズした企業の業務システム用端末として活用することができます。アプリケーションの開発には開発キット(SDK)を無償で公開・提供しておりますので、こちらを使い、自由に開発することができます。さらに、M1000はBluetooth通信機能

を搭載しているので、アドインアプリと組み合わせて様々な業務システムと連携することができます。

各論頁でご紹介するように、SIパートナーがM1000用のソリューションを提供していますね。

徳広 SIパートナー様が開発・提供するM1000向けシステムや業務アプリケーションなど、各種ソリューションを利用することで、開発期間の短縮やコストが圧縮できるほか、より高度な機能の実現が可能になります。それに加え、NTTドコモでも独自に、ビジネスコンシューマ向けのアプリケーションとして、M1000を紛失してしまった際に端末内の個人データを守るための「遠隔ロック/消去」や、「メール/Web一括取得」、無線LAN接続の設定・接続操作を簡単にする「コネクション・マネージャ」などのほか、法人向けにはM1000のプッシュ型メール受信機能を利用しリモートでアドインアプリを起動する「SMS-Push遠隔アプリ起動」や企業には欠かせないセキュリティ機能アプリである

「セキュリティ監視ツール」などを提供しています。

法人市場での立ち上がりは、当初予想よりも早い

ビジネスFOMAの今後の展開についてお聞かせください。

徳広 iモードは垂直統合型のビジネスモデルでしたが、M1000はパソコンやPDAと同じ、水平分業型のビジネスモデルです。私どもは、この両方で、市場を押さえていきたいと考えています。M1000の展開は、ビジネスコンシューマへの浸透を第一段階と位置づけていましたが、まずまずの手応えを感じています。一方、企業内システムでの利用も、導入事例が出始めており、当初の予想とは異なり立ち上がりは比較的早いと思っています。ビジネスFOMAのラインナップ化や後継機種については、お客様の利用動向とニーズ等を見ながら今後検討していきたいと思っています。

本日は有り難うございました。
(聞き手・構成：編集長 河西義人)